稲城野草散策の会

野草スケッチ　ナンテンハギ（マメ科）

1996/09/12　　稲城市坂浜　　絵と文　Ｔａ

平尾地区は稲城市の最南部にあって、坂浜地区と接している。
稲城市の中でも一番早くに開けた地域である。
昭和５２年に土地区画整備事業が始まって、大規模な団地が形成された。
交通の便としては、小田急の新百合ヶ丘駅、栗平駅（どちらも川崎市）が近い。

会報第７２号　２０１０年１２月１９日発行　発行責任者　尼子　房夫

私の住んでいる矢野口から見ると、山を一つ越えた向こう、という感じが否めない。

団地内の植生は、街路樹や庭木、花壇などの人工的なものになるため、平尾地区をメインとした観察会はあまり行っていない。
それでも団地の周辺には雑木林や畑などが残っていて、坂浜地区での観察と組み合わせてコースを設定することはある。
故曽根先生がリーダーの観察会で、平尾のバス停に集合して、坂浜まで歩いたことがあった。ナンテンハギとの最初の出会いはそのときである。

ナンテンハギには別名がいろいろあり、フタバハギ、アズキナ、タニワタシなどとも呼ばれている。
フタバハギの名は、マメ科にしては珍しく２枚複葉になっていることからだ。
２枚１組が１個の葉なのだという。
他のマメ科、たとえばヤマハギは３枚１組になっている。
マメ科ではもっと枚数が多い種類の方が多い。
２枚というのは、マメ科ではナンテンハギだけだと思う。

別名がたくさんあるということは、昔から広い地域で有用植物として利用されてきたことを示している。
利用するために名前が付けられ、地域ごとに違う呼び名が使われていたことの証拠といえよう。
事実、アズキナは東北地方での山菜名である。
語尾の「ナ」は、食べられるという意味なのだそうだ。
古い植物名で「ナ」がつくものは、現在はそうでなくとも、食用にした経緯があるらしい。

檜原村（東京都）の施設を借りて、山菜を摘んで食べるオフを毎年行っている。
私が主催し、パソコン通信仲間が２０～３０人集まる。
山菜といってもワラビ、ウド、タラノメなどのポピュラーな山菜はほとんど採れない。
地元の人が見向きもしないような草を集めてくる。
その中で評判がいいのはナンテンハギだ。
てんぷら、和え物などにするが、独特の香ばしさとコクがあって、なかなかいける。

施設を管理している青年団の団長・・・といっても私と同年代・・・が、遊びに来る。
採集した山菜や料理を見たり聞いたりして、団長がのたもうた。
「なんだ、おめえらは、おれたちが子供の頃に牛や馬の餌に集めてたもんを食ってるだな」ガクっという感じであった。
でも、美味しいものはおいしいのだ。

最初の出会いから数年経って、ナンテンハギは稲城市内の各所にあることを知った。
だが、群落としてはいずれも貧弱で、数本がまばらに生えているものばかりだ。
元気がなかったり、茎がむしられていたり、足場が悪かったりで、スケッチ対象となるものにはなかなかめぐり合えない。

坂浜で別の花をスケッチした帰りに駒沢学園の学園広場（ヤマユリの項参照）へ寄ったとき、活きのいいナンテンハギが咲いていた。
既に午後２時を回っていて、時間的には非常に厳しい。
しかし、絶好のチャンスだ。
よ～しとばかり、馬力をかけてスケッチしたのがこの絵である。
描き終わったころには、もう日が沈んでいたことを思い出す。
（２０００年１１月記）

＊　＊　＊　＊　＊

〔観察記録〕１１月１４日　天覧山

西武池袋線飯能駅に集まったのは４４人、出発してからも合流された方も何人かいらしたようで、総勢５０人近い人数での観察会になりました。

駅を出発して、だいたい西北西に歩き始めます。商店街を抜け、住宅街に入るあたりに、重厚な構えの蔵作りの商家が散見されます。裏通りに入っても蔵が目立ちます。飯能の町は、江戸時代に入ってから、江戸の町に材木を供給することで発展した町です。高句麗人伝来の絹織物もそれなりに需要があったのでしょうが、何といっても、江戸の大火です。材木価格は急騰します。江戸の町が大火になる度に飯能の町は大きくなっていったんでしょう。

住宅地を抜け小さな川を渡るあたりでは、たくさんのシダを見ることが出来ました。川を渡って市民会館と郷土館の間を抜けて、飯能中央公園へ、ここで、ちょっとトイレタイム。前方には天覧山、その麓には能仁寺の山門が見えます。山

門をくぐって少し登り、右側の駐車場を抜けます。この辺は紅葉が始まっていてなかなか見事な景観です。舗装された散策コースを上ると、ちょっとした広場があります。山頂にはトイレがないため、ここでもトイレタイム。

綱吉の生母・桂昌院が能仁寺に寄進した十六羅漢を見ながら、岩の階段を登ると、もうそこは山頂です。天覧山の標高は１９４メートル、麓の飯能市街は１００メートルちょっとですから、標高差は９０メートルほどですが、なかなかの見晴らしです。

昼食後は、裏の階段を下って小さな沢筋に出ます。このあたりでも、かつては小規模ながら稲作が行われていたのでしょう。そんなことを思いながら、市街地に降りてきました。帰路に立ち寄った岩根橋上からの紅葉は素晴らしかったですね。

今回のアナウンス係はぽんこさん、名札貼り係は山口さん、お二人に「感謝」です。最後にアナウンスのあった植物名を列挙しておきます。

▼観察記録（番号順）

⑴オオイタチシダ、⑵イタビカズラ、⑶トラノオシダ、⑷ヤマヤブソテツ、⑸マルバウツギ、⑹イワガネソウ、⑺オオバノイノモトソウ、⑻ベニシダ、⑼イヌワラビ、⑽キチジョウソウ(花)、⑾ケヤキ、⑿ヤマウルシ、⒀テイカカズラ、⒁シオン(花)、⒂ジャノヒゲ、⒃ヤマツツジ、⒄ハリガネワラビ、⒅オオハナワラビ、⒆フユノハナワラビ、⒇タチシオデ、(21)フユイチゴ(実)、(22)ササクサ、(23)アラカシ、(24)マルバアオダモ、(25)ネジキ、(26)トウゴクミツバツツジ、(27)ネズミノオ、(28)コウヤボウキ(花)、(29)ヤマグワ、(30)アオハダ、(31)ヌルデ、(32)カマツカ、(33)ヤマテリハノイバラ、(34)コアジサイ、(35)バイカツツジ、(36)ヤマノイモ、(37)アカメガシワ、(38)リョウブ、(39)ツリバナ、(40)ヤブムラサキ、(41)ムラサキシキブ(実)、(42)ツクバネウツギ、(43)アキノキリンソウ、(44)ノガリヤス、(45)オトコヨウゾメ、(46)コバノガマズミ、(47)ヤブコウジ、(48)ミゾシダ、(49)オオバギボウシ、(50)カシワバハグマ(花)、(51)モミジイチゴ、(52)ヤマユリ、(53)ヤマコウバシ、(54)ハンショウヅル、(55)ノダケ、(56)エゴノキ、(57)ノハラアザミ(花)、(58)カナムグラ(実)、(59)トキリマメ(実)、(60)ガクウツギ、(61)ミサキカグマ、(62)ヤマイタチシダ、(63)サルトリイバラ、(64)ミヤマガマズミ、(65)ゴンズイ、(66)シケシダ、(67)リョウメンシダ、(68)ニガイチゴ、(69)トダシバ、(70)マメガキ(実)、(71)ウメモドキ(実)、(72)キツノノマゴ(花)、(73)ハナタデ(花)、(74)ベニバナボロギク(花)、(75)ヌカキビ、(76)ホトケノザ(花)、(78)イヌタデ、(79)イノモトソウ、(80)コスミレ、(81)カニクサ、(82)シロヤマブキ(実)、(83)ハナイバナ(花)、(84)ケンポナシ(実)、(85)ムクノキ、(86)フユザクラ(花)

▼天覧山に参加された皆様、お疲れ様でした。

天覧山は 1,999 年と 2000 年に当会で訪れたことがありますが、かなり久しぶりという感じでした。

天覧山を含む奥武蔵地区は、多摩丘陵と似たような環境に思えるのですが、植生はかなり違っていましたね。イタビカズラ、トウゴクミツバツツジ、フユイチゴ、ササクサ、バイカツツジ、ツクバネウツギなどは多摩丘陵ではまったく見られないか、ごく少ない植物群です。

いままで漠然と多摩丘陵と奥武蔵の違いなのかなあ、と思っていましたが、今回、地質の違いからくるものではないか、という気がしてきました。多摩丘陵はぶ厚い関東ローム層に覆われていて、岩はまったくありません。それに対して奥武蔵はほとんどが岩山です。１６羅漢や頂上付近で見た岩は「硬い」ことで知られているチャートでした。硬いということは、風化しにくいので岩が風化してできる土がありませんし、火山灰なども溜まりにくい・・・このため、山は乾燥して貧栄養の状態が保たれるのではないでしょうか。貧栄養の環境だと、ツツジ科、リョウブ科などが多く見られるようになります。

一方、多摩丘陵はふかふかの土と落ち葉が積もった腐葉土でどんどん富栄養化しています。この違いが植生に大きな影響を与えているのではないか、ということを感じた今回の観察会でした。

帰りのコースも、2,000 年のときとは違ってショートカットにしています。

このため、帰りに道を間違えたりしてご迷惑をおかけしました。

結果として早く駅に戻ってしまったので、物足りなさを感じた方もおられたのではないでしょうか。

ま、世話役もだんだん無理がきかなくなってきていますので、こういうコースで止むを得ないのかなあと思っています。（Ｔａ）

〔募集・２０１１年度観察会の推薦場所〕

２０１１年度の観察会の希望の場所を募集します。皆様からのご提案をお待ちします。月例の場所としては、１２月の焼き芋大会、１月の七草摘み、稲城ふれあいの森、三沢川下りなど稲城周辺での観察会があります。ほかにバスハイク観察会１回を考えています。

過去のバスハイク観察会は、000806（日）乙女峠、010729（日）三ツ峠、020627（日）三窪高原、030724（木）高峰高原、040722（木）入笠山、050714（木）高ボッチ、060427（木）函南原生林、070720（金）霧ヶ峰高原、080523（金）清里、090627（土）すずらんの森、100805（木）池の平です。

〔行事予定〕2010/12/19（日）　焼き芋大会

項　目	説　明
集　合	午前１０時、京王相模原線京王よみうりランド駅　　※会旗目標 京王よみうりランド駅の改札口は一個所だけです
交　通	京王線調布駅から相模原線橋本行快速または各停で３駅目 京王よみうりランド駅には急行は停まりませんのでご注意下さい
行く先 (解散場所)	稲城市穴沢天神での恒例・焼き芋大会です。穴沢天神で解散。最寄駅は京王よみうりランド駅です 焼き芋準備グループと観察グループの２班に分かれて行動する予定です
見所･その他	たき火(^_^;) 冬芽，常緑シダなども観察します 当会の忘年会を兼ねます。芋，酔い子の飲み物などは幹事が用意します。差し入れ大歓迎！！
コース	観察グループのコース： 駅前～よみうりランド遊歩道～小沢城址～穴沢天神（焼き芋大会） （解散：１５時３０頃）

※雨天決行　参加申込み不要、会費当日５００円

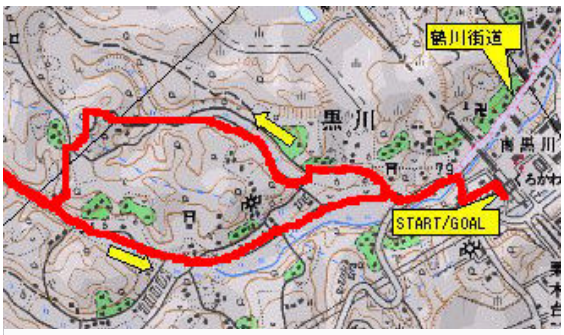
〔紹介〕冬芽ハンドブック

稲城野草散策の会の世話役・広沢さんが初のハンドブックを刊行されました。
発行：文一総合出版、解説と絵：広沢毅、写真：林将之、定価：１２６０円
林将之さんは、「葉で見わける樹木」、「樹皮ハンドブック」、「紅葉ハンドブック」でおなじみの方です。

＜本書の特長＞
●鮮明な冬芽のスキャン画像を多用した、ビジュアルな紙面。
●冬芽画像を一覧掲載した、初心者にも調べやすい検索表。
●冬芽や葉痕、枝、幹の特徴を、比喩を交えて紹介した解説。

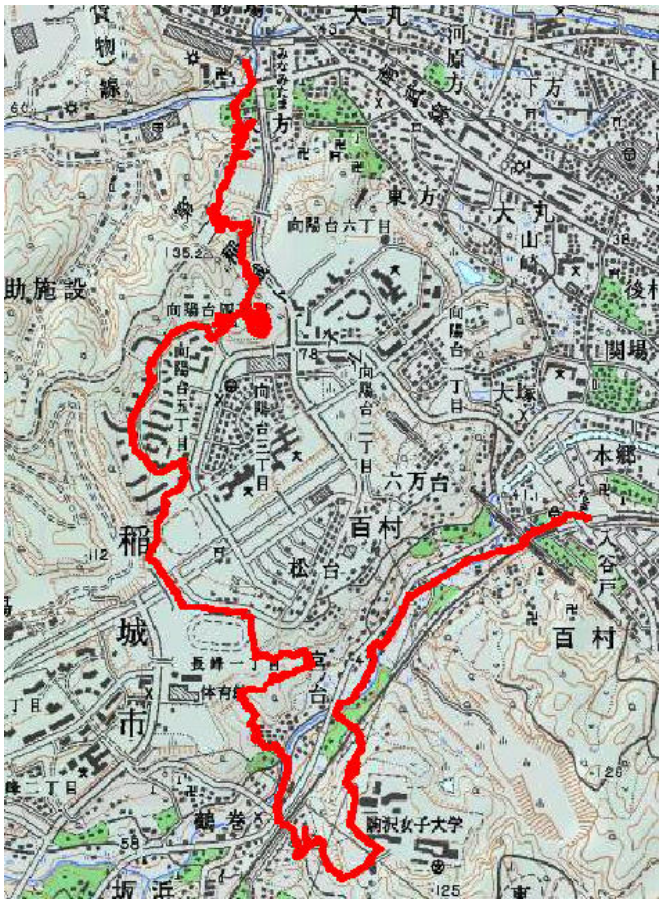
書店で右のような本を見かけたら是非ご購入下さい。

〔行事予定〕2011/1/16（日）　黒川・行事計画

項　目	説　明
集　合	ａｍ１０時、小田急多摩線・黒川駅南口階段下　※会旗目標 改札口は一個所だけです
交　通	小田急線・新百合ヶ丘駅より唐木田行きに乗換えて３駅目 京王相模原線・永山駅で小田急多摩線に乗換え２駅目です 京王線利用者は、京王相模原線・若葉台駅から徒歩（１０分弱）が便利
行く先 （解散場所）	午前中は黒川の谷戸で七草摘みをします。 午後は２０１１年度の行事予定を検討し、ｐｍ4時頃解散予定
見所 その他	七草粥用のセリ、ナズナ、オギョウ（ハハコグサ）、ハコベラ（ハコベ）、ホトケノザ（コオニタビラコ）などを摘みます 。 摘んだ七草は各自お持ち帰りください 七草粥は作りません。昼食は忘れないでご持参ください
地　図	
コース	黒川駅→汁守神社→（黒川の谷戸で七草摘み）→汁守神社→（徒歩）→稲城市立ｉプラザ（１２時半ころより昼食後行事予定検討/若葉台駅のそば）（解散・・・１６時ころ）（上の地図を参照ください） コースは天候その他により変更する場合があります

※小雨決行　参加申込み不要、会費当日３００円。

〔行事予定〕2011/2/27（日）　城山～中央公園

項　目	説　明
集　合	ａｍ１０時、ＪＲ南武線南多摩駅　改札口　※会旗目標 南多摩駅の改札口は一個所だけです
行く先 (解散場所)	ＪＲ南武線南多摩駅から京王稲城駅まで（下の地図を参照ください） 京王線稲城駅にてｐｍ４時頃解散予定
見所 その他	冬芽、シダの観察
地　図	
コース	南多摩駅～城山公園～稲城中央公園～清水谷戸～駒沢学園～ 京王稲城駅（解散：４時頃） 駅近くにコンビニあり。途中、トイレは数箇所あります コースは天候その他により変更する場合があります ご用のある方は途中で抜けても構いません

※小雨決行　参加申込み不要、会費当日３００円